

まえがき

～各駅停車の旅に出かけよう～

初級ドイツ語の勉強を一通り終えた（と思う）けれど、なんとなくあいまいなところがある（気がする）。もう少ししっかりと足固めをしながら、さらにドイツ語の勉強を続けたい。そのような学習者の皆さんのことを考えながら本書を作成しました。さまざまな学習動機を持ったさまざまなレベルの学習者が、それぞれの形で、無理なくドイツ語学習を続けられるようサポートする——これがこの本の基本的なコンセプトになっています。

本書は、「読む・書く・聞く・話す」という4技能のバランスを配慮したドイツ語の中級総合教科書です。初級教材にはいろいろなタイプのものがありますが、どのような教材で勉強してきた学習者にも対応できるよう、最大限の配慮をしました。初級で詳しく取り上げられないことのある項目として、本書では特に、動詞の文法カテゴリー（時制・法・態）および複合文（副文・不定詞構造など）に焦点を当て、詳しく扱っています。それ以外の項目についても、各所に復習のための要素がちりばめられています。既習項目で確かめたいところがあったら、本書の初めに「初級文法のまとめ」を掲載しましたので参照してください。各課の構成と特徴は次の通りです。

- **メイン・ダイアログ**では、身近で飾らない日常のシーンを再現。聞く練習、話す練習に集中できるよう、初めから単語の意味や日本語訳を提示しています。
- **文法**は、常にダイアログと連動。言語運用に即した実地的な構成になっています。自宅でも学習できるよう、しっかりと解説を加えました。
- 運用能力の定着を目指す**練習**は、同じ単語や類似の言い回しが、少しずつパターンを変えながら繰り返し出てくるよう作られています。
- 練習の途中には、息抜きの**文化コーナー**。学習項目外という位置づけで、ドイツ語のテキストも入っています。CDには音声も収録されていますので、視覚と聴覚の両面からドイツ語を楽しんでください。
- 巻末の**動詞変化表**には、メイン・ダイアログに出てくるすべての動詞とその他の箇所から重要な動詞を選んで掲載。例文とともに紹介しています。

ドイツ語を学び始めたときのようなわくわくする気持ちはもうないかもしれません。でも不思議なことに、ドイツ語との付き合いの中で、私たちの目に映る風景は確かに変化し続けています。周囲の風景に目を向けることができるようになったこれからは、本当の意味での学習の始まりなのかもしれません。興味深い風景を楽しみながら、まだまだのんびりと、ドイツ語の旅を続けていきませんか。

本書の作成にあたっては、三修社編集部の菊池暁さん、校正段階では清水邦子さんにお世話になりました。また佐藤睦美さんには、ハンナ、ティーロ、ナオキたちの日常を描いていただきました。ありがとうございました。

著者

正書法について

ドイツでは、1998年8月より、学校教育を中心に新しい正書法（つづり方のルール）が導入されました。実際に影響を受けるのは一部の語です。この新規則については問題も多く、その後何度か改訂が繰り返されました。現行では2006年8月に施行されたものが最新版です。広く教育現場で用いられている点を考慮し、本書もこの「**新正書法**」を採用しています。しかしながら、未永くドイツ語を学んでいく場合、両正書法についての知識があった方がよいとの判断から、従来の正書法も「**旧正書法**」として併記しました。